

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科 介護福祉専攻)

○令和6年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

・「介護福祉論Ⅰ」や「高齢者の生活の理解Ⅰ」など多くの授業科目において、内容、隣接科目との内容の重複、開講時期などが適切であると判断されている。

【課題・できていないこと】

・「人間関係と援助技術」（1年後期）について、医療福祉システム論と毎年後期の前半8回・後半8回の順番を入れ替えながら実施しているが、前半8回の際に多くの学科の学生が実習に行き、かつ学科毎に実習の時期が異なるため補講などで複雑な対応が求められる。

・「障害とコミュニケーション技法」（2年後期）について、科目の特性からコミュニケーションⅠとの開講時期や生活支援技術への位置づけについて調整が求められる。

・「介護レクリエーションⅢ」（2年前期）について、受講者数が少なく学習効果が低いため、事前に受講者数を調整する等の対応が求められる。

【その他・今後の検討事項等】

・「社会福祉演習」の開講の可能性について、卒業に必要な単位数や時間割上の配置を考慮すると直ぐの解決は難しいが、引き続き検討していく。